


engine

vol.24



engine

vol.24



withコロナでも、
豊かにつながり合う

- ミニ特集 withコロナでも、豊かにつながり合う
- アンケート結果から見えること
- さあ、この状況を経て動き出す！
- 大人の学級「やりカタ」講座
- 市民ライター養成講座

健康・友好・平和の理念のもと活動している「つづき健康太極拳」は今年で26目を迎えます。新型コロナウイルスの影響で活動を休止していましたが、この日、都筑中央公園の夏木立の中、久しぶりに太極拳を行いました。（詳細は中面記事参照）

ミニ特集

withコロナでも、
豊かにつながり合う

新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大していく中、都筑区内で活動する市民活動団体、サークル、地域コミュニティにも様々な影響が出ています。都筑区民活動センターでは、緊急事態宣言が発令されていた5月に、登録団体に向けて「新型コロナウイルス感染拡大に伴うアンケート」を実施しました。今号ではアンケートの中から、この状況を前向きに捉え、新しい試みや工夫をしながら活動を進めている団体取材しました。

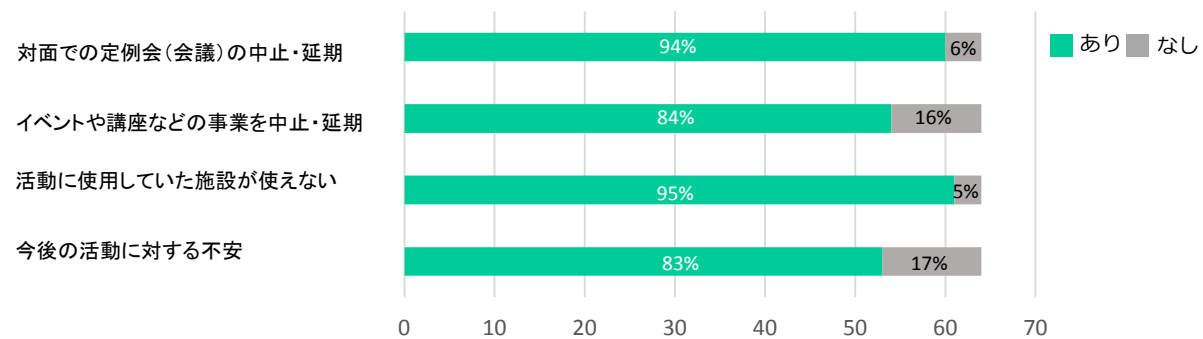
withコロナ時代の豊かなつながりのかたちを探ります。

アンケート結果から見えること

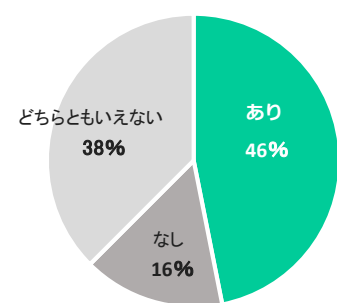
「新型コロナウイルス感染拡大防止に伴うアンケート」より
実施期間：2020年5月18日～5月31日
調査対象：都筑区民活動センターの登録団体203（回答数64）

新型コロナウイルスが市民活動に大きな影響を与え、多くの団体が活動のやり方を模索していることがわかります。コロナ禍で活動が難しくなっても、人との関わりや新しいつながりが必要だと感じる結果となりました。

■団体の活動にどのような影響がありましたか？

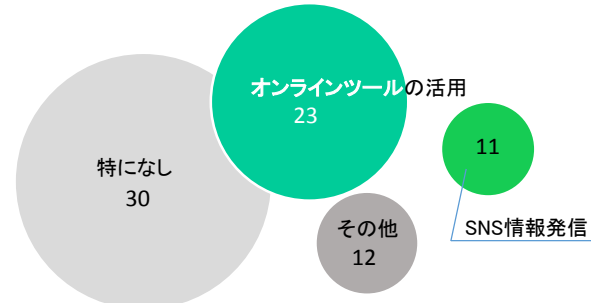


■この状況をきっかけに変化しようとしていることはありますか？



■変化しようとしていることはどんなことですか？

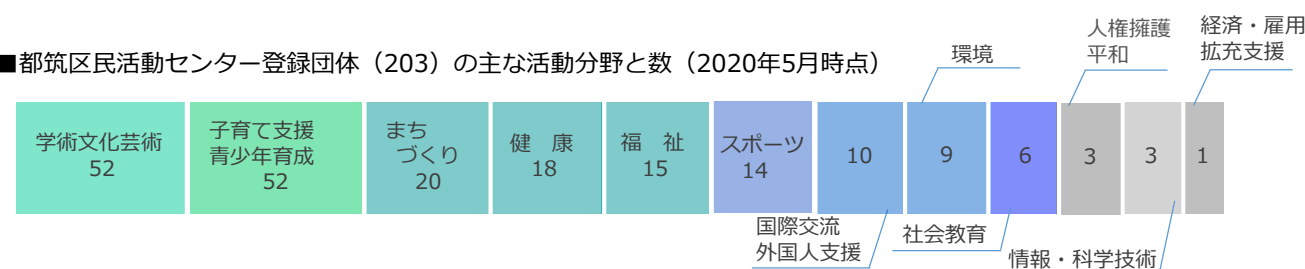
- ・オンラインとリアル開催の両方を継続していきたい
- ・これまで以上に感染予防対策に配慮した活動を行う

■団体として新たに始めたことはありますか？
(総数76 複数回答可)

■新たに取り組んだことで成果はありましたか？

- ・会議の頻度が上がり、情報共有がしやすくなった
- ・困った時こそ励まし合い、助け合うことの大切さを確認できた

■都筑区民活動センター登録団体（203）の主な活動分野と数（2020年5月時点）



さあ、この状況を経て動き出す！

子育て中の「あったらいいな」を作っていく
NPO法人H&K

明るいスタッフにパワーをもらえる

「ハッピーひろば」は、NPO法人H&Kが運営する子育て支援施設である。未就園児の親子の居場所として昨年12月にオープンした。コロナ禍の影響で休館中は、オンラインで開催し、絵本の読み聞かせ、お母さん同士のトーク時間をつくるなど、利用者の反応を見ながら手探りで進めていった。他にも、リモートでの子育て相談や気軽に話せるおしゃべり会を実施。SNSでは身近な情報を発信した。さらに利用者子どもたちに向けたぬり絵葉書の送付も行い子育て中に「あったらいいな」と思うことを次々に実施した。スタッフの河西さんは「以前手紙をもらって嬉しかった体験から、ひと言添えたぬり絵葉書を送ることを思いついた。色々な方法でつながりを作りながら、次はハッピーひろばでゆっくりおしゃべりしたいと思うきっかけになればいい」と話す。誰かと話したいと思った時、親子でふらりと寄れる場所。子育て経験者や現在子育て中のスタッフが迎えてくれる。

■information 親と子のつどいの広場「ハッピーひろば」
運営 NPO法人H&K <https://www.facebook.com/HK.tudukiku/>

ゆるやかに、途切れることなく活動を続ける
つづき健康太極拳

柔らかな、ゆったりとした動きで

6月の青空の下、3ヶ月ぶりにつづき健康太極拳のメンバーが集まった。練習場所を室内から野外へと移し、ソーシャルディスタンスを保ちながら活動を再開した。つづき健康太極拳は、都筑区誕生と同じく25年の歴史があり「健康・友好・和平」の理念のもと、心と体の健康を目指して活動している。自粛期間中はメンバーに太極拳の資料を郵送し一人でも練習ができるように工夫を行った。また、電話連絡網を流してメンバーの健康を確認し合い、会えなくてもつながりが途切れないように心掛けた。代表の菊川さんは「60～80代の高齢者が多いサークルだが、人や社会とのつながりを持ち、ゆるやかでいいから笑顔で活動を続けていきたい」と話す。木立の中、太極拳を行うメンバーの表情は凛としていたが、終わると「やっと会えたね」と久しぶりの再会に笑顔があふれた。

オンライン会議で、よりつながった仲間たち
モヤ→キラ委員会

モヤ→キラ委員会は2015年より都筑区が行ってきた『輝く女性応援プロジェクト』を引き継ぎ、「わたしらしく生きる、を応援する」という理念を持ち発足した。今までは月2回の定例会開催だったが、新型コロナウイルスの影響でZOOMによるオンライン開催に切り替えた。その結果、遠方に住むメンバーも参加しやすくなり、運営メンバーが増えた。昨年度の講座受講生とのオンライン同窓会も開催し、外出自粛生活の中、近況や現在の悩みを話し合うことによって気持ちを前向きにすることができた。「ずっと家の中に居て曜日の感覚もなかったが、定例会が木曜日にあると思うだけで気持ちが上がり、みんなと話せることで心が穏やかになった」とメンバーの劉さんは話す。オンライン会議を開催したことで、より活動が活発になりメンバーのモチベーションが上がり、会が結束した。秋にはオンラインを使った講座開催を計画している。



区民活動センターでオンライン会議

お手紙弁当を通じて、新しいつながりを
NPO法人ロクマル

NPO法人ロクマルは「60歳からは仕事を通して地域で心豊かな人生を送ろう」をテーマにロクマル世代の挑戦を支えている。新型コロナウイルスの影響で「みんなのキッチン」の開業が出来なくなったことをきっかけにロクマル食のチームのメンバーが、今私たちに出来ること、食を通して地域の人たちに向けて出来ることは何かを考え「お手紙弁当」という新しい活動を始めた。一人暮らしの人や、外出する機会が減った人たちにお弁当を届ける際、家で出来る健康体操のリーフレットと一緒に、その人に向けたお手紙を添える活動である。「お手紙を受け取った人がお返事を書く。理想としてはそのやり取りがずっと続き、コロナが収束しても対面でつながっていける、そんな地域のほのよい付き合いが生まれてくれれば良い」と代表の有澤さんは話す。お手紙弁当を通じて、地域での新たな人と人とのつながりが出来ていくことを期待する。



お手紙に心を込めて

■information NPO法人ロクマル TEL:045-944-1714
(平日9時～17時) ※お手紙弁当の活動メンバーも募集中